



▲指導する川原汀さん(右)と広岡弘子さん。「今度は何を切ろうか考えるだけでも楽しい」(広岡さん)



▲神楽坂上(川原さんの作品)



▲毘沙門天(川原さんの作品)

切り絵がむすぶ 粋なまち 切り絵かっぱ会

飯田橋から神楽坂を上っていくと、左手に善國寺(毘沙門天)の赤いお堂が見えてきます。その境内で月に1回開かれているのが「切り絵かっぱ会」。

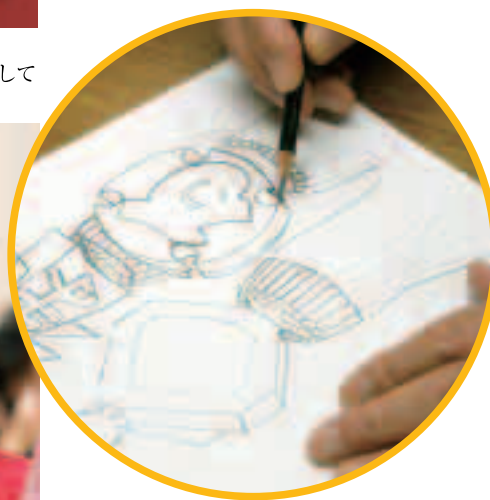
「3、4人でスタートしたこの会も今年で20年。今では40人ほどの仲間と楽しんでいます」と話してくれたのは、会長の花形輝雄さん。

「題材は自由。わたしは神楽坂の風景や旅先で撮った写真を題材にします。5、6日ほどかけて完成させた作品を額に入れて飾る瞬間は、とても感動しますよ」。

かっぱ会の切り絵は、作品を台紙から少し浮かせるのが特徴。輪郭がぼんやりと立体的になり、光の加減や見る向きで印象が変わるため、さまざまな表情が楽しめると思います。この手法を考案した川原汀さんが、会の指導に当たっています。

▲花形輝雄さん
※4面に花形さんの作品を掲載しています。

▲宇賀神郁夫さん



「作品全部がお気に入り」と笑顔で話す宇賀神郁夫さんは、切り絵を始めて17年。「長く続けていても難しいところがあって奥深いです。作品を作るときはすごく集中するので、ストレス発散にもなります」。

花形さんも宇賀神さんも、作品は人にあげてしまうことが多いそうです。「行きつけのお店でも飾ってくれていて、恥ずかしくもあり、うれしくもあり…」と宇賀神さん。

こうして、切り絵の世界はどんどん広がります。



▲切り絵かっぱ会の皆さん。毎年6月には作品展を開催しています

みんなの笑顔で
元気をつなぐまち
しんじゅく

新宿のまちでは、地域に根づいたさまざまな活動に、多くの皆さんが活躍しています。

こうした活動は、まちに元気にぎわいを、そして、心にうるおいを与えてくれます。

今回は、いきいきと活動する中高年の皆さんを紹介します。

【問合せ】

区政情報課広報係(本庁舎3階)
☎(5273) 4064へ。

仲間の笑顔が 元気の源 落合クラブ(バレーボール)



▲「よっし」「オッケー!」元気な声とボールを打つ乾いた音が体育館の中に響き渡ります

「バレーボールはもう30年以上。自分にとっての生きがいです。たとえ頭が痛くても練習は休みませんよ」。クラブのシニアチームキャプテン沖千枝さんは、バレーボールへの思いをこう話してくれました。

チームは昨年、全国家庭婦人バレーボールいそじ大会(50歳以上)の東京都選で準優勝し、3度目の全国大会へ。福井県で行われた全国大会でも16チームのブロックで準優勝しました。その強さの秘密は…?「そんなに上手な人はいないけど、チームワークが良くて粘りがある。9人がひとつになったときは、試合が楽しくて楽しくてしょうがないんです」。



▲沖千枝さん



▲山本孝子さん

メンバーから「山ちゃん」と慕われているのが、チーム最年長で全国大会にも出場した山本孝子さん。練習が始まれば、ほかのメンバーと同じメニューをこなします。

「バレーボールは夢中になれるし、仲間がいることが一番の魅力。みんなバレーが根っから好きな人たちだから長く続いているのでは」。大好きなバレーボールと頼もしい仲間。元気の源は、そこにあるのかもしれませんが。

今後の目標を沖さんに伺うと、「まだ全国大会に出ていないメンバーを後押しして、また全国大会に行きたいですね」。全国大会には「ことぶき大会(60歳以上)」「スーパースターことぶき大会(70歳以上)」もあるとのこと。皆さんの今後の活躍が本当に楽しみです。



▲落合クラブの皆さん。「年に1度はみんなで旅行に行くこともチーム作りに役立っています」(沖さん)



▲対局が始まると子どもたちの表情も真剣そのもの



▲「もっとレベルを上げて対外試合をするのが目標」(長谷部さん)

子どもと碁盤を囲む かけがえのない時間 頭の良くなる子ども碁教室

平成14年に唐沢清四さん(故人)と長谷部靖さんの呼び掛けで始まった、大久保地域センターでの子ども碁教室。現在、13名の地域の方が、ボランティアで子どもたちに碁を教えています。

「教室に来る子どもは孫のようにかわいいんです」と目を細める長谷部さんに、教室が長く続いている秘けつを伺いました。

「厳しい先生もいれば、なだめる先生もいる。チームワークがいいんです。それに、運営をバックアップしてくれている大久保地域センター管理運営委員会の方の協力も大きいですよ」。

Bクラス(入門～初級)を担当する佐藤貴さんは、低学年の子どもを指導するのに苦労も多いといいます。「子どもたちが席に着くまで何分も待つこともあるので、根気が必要です。でも、一緒にいるとエネルギーがもらえますよ」と、大いに刺激を受けている様子。

長谷部さんと一緒にAクラス(中級～上級)を指導する鈴木理さんも、長年碁に親しんできた一人。「碁を通して学んだことは一生の財産になると思います。負けて悔しい、次こそは、と感じることも大切な経験です」。

勝負に勝ち負けはつきもの。本気で喜んだり、泣いたり、怒ったりする経験は、子どもたちにとって、何物にも代えがたい宝物となるに違いありません。



▲碁教室の皆さん。毎年3月に開かれる碁基大会も盛り上がります



▲左から鈴木理さん、長谷部靖さん、佐藤貴さん

新宿区役所本庁舎・第1分庁舎・第2分庁舎の代表電話は、☎(3209) 1111です。